
2025年07月04日 インフラ自分ごと検討会@土木学会

ケアとしての避難→ケアとしての土木

松田曜子（京都大学防災研究所・准教授）

「自らの命は自らが守る」

...目指す社会として、「住民が『**自らの命は自らが守る**』意識を持って自らの判断で避難行動をとり、行政はそれを全力で支援するという住民主体の取り組み強化による防災意識の高い社会を構築する必要性...

平成30年7月豪雨では、大雨特別警報が11府県に発表される記録的な大雨により、岡山県・広島県・愛媛県を中心に河川の氾濫、土砂災害等が多数発生し、死者・行方不明者が200名を超え、昭和58年8月豪雨以来死者数が初めて100名を超える大惨事となった。この未曾有の豪雨災害を教訓とし避難対策の強化を検討するため、中央防災会議防災対策実行会議の下に設置された平成30年7月豪雨による水害・土砂災害からの避難に関するワーキンググループでは、目指す社会として、「住民が『自らの命は自らが守る』意識を持って自らの判断で避難行動をとり、行政はそれを全力で支援するという住民主体の取り組み強化による防災意識の高い社会を構築する」必要性が示された。この報告を踏まえ平成31年3月に「避難勧告等に関するガイドライン」を改定し、居住者等が災害時にとるべき避難行動が直感的にわかるよう避難情報等を5段階の警戒レベルに整理し、わかりやすく情報提供できるよう改善した。

令和元年台風第19号(令和元年東日本台風)では、1都12県309市区町村に大雨特別警報が発表され、国及び県管理河川において142箇所が決壊する等、同時多発的かつ広範囲に甚大な被害が発生した。これら豪雨においても、避難をしなかった、避難が遅れたことによる被災や、豪雨・浸水時の屋外移動中の被災、また高齢者等の被災が多く、いまだ住民の「自らの命は自らが守る」意識が十分であるとは言えず、また、警戒レベルの運用により避難情報等は分かりやすくなったという意見がある一方で、避難勧告で避難しない人が多い中で、警戒レベル4の中に避難勧告と

避難情報に関するガイドライン（2021年5月改定）はじめに

...これら豪雨においても、...また高齢者等の被災が多く、いまだ住民の「**自らの命は自らが守る**」意識が十分であるとは言えず...



新たな避難情報に関するチラシ（2021年 内閣府ホームページ）

避難に時間のかかる
高齢者や障害のある人は、
警戒レベル3高齢者等避難で
危険な場所から避難
しましょう。

「自らの命を自ら守れる」人はどこにいるか？

- あなたは「自分の命を自分で守れる」か？
- あなたの家族は「自分の命を自分で守れる」人か？
- 「自分の命を自分で守れる」人はどこにいるか？
- 私の答え「そんな人はどこにもいない」
 - より正確には、以前の答え「少なくとも私は自分の命を自分で守れるし、多くの人もそう。しかし、世の中には自分のことを自分で守れない人もいたので、そういう方のことを私たちは考えねばならない」
 - しかし、ケア経験を経た私は「あらゆる人は自分だけでは自分を守れない存在」だと主張したい。
- We are all vulnerable, cannot survive without care from others, no exception.
- 特権的無責任 (privileged irresponsibility)

ケア：自力では生存できない人間の本质

ケアの概念（J.トロント）

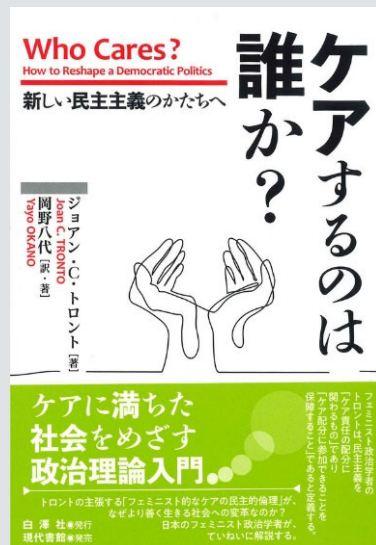
わたしたちがこの世界で、できる限り善く生きるために、この世界を維持し、継続させ、修復するためになす、すべての活動」あるいは「ひとが人間社会でひととして生きるために必要な、**他者からの応答**全般

ケアされている<わたし>の日常

「雪国であれば朝早くから除雪車が道路を整備してくれ、公共交通機関では駅の構内から車両に至るまで、わたしたちを不快にさせないよう、そしてなにより安全のために、多くのひとが整備に携わっている」

（岡野八代「ケアの倫理」）

ケアの倫理



- いずれもコロナ禍以降に出版（or増補版出版）
- 研究成果の蓄積と時代背景が合致した
- いずれもフェミニズム研究の流れを汲む
（ケア労働には主に女性が従事していたから）

ケアの倫理に関するキーワード

- 現代は「ケアのない」あるいは「ケアを軽視した」社会
 - 自立した強い個を是とする
 - 自己責任の原理
 - 個人の意思を尊重し介入しない
- ケアに満ちたオルタナティブ
 - 相互依存的な人間がケアによって関係性をつくる
 - 人間には誰しも互いにケア（気にかける・応答する）する責任がある
- ケアには相反する感情が伴う
 - 人間の脆さに直面することは、やりがいがあると同時に極度の疲労も伴う
 - すべてへのケアを同時に成立させることは不可能
- 時間感覚の相違
 - カイロスの（身体を伴って経験する主観的時間。無数の小さなできごとの積み重ね）時間がクロノスの（計測される、客観的な、連続的進行）に先行する
- ケアは実践を伴う
 - 実践によって他者を思いやり、やり過ぎ、見捨てない能力を育てる

「行動する個人（自律的避難者）」 + 「情報弱者」を念頭に置いた施策

結びつける新たな6つの連携プロジェクト
～受け身の個人から行動する個人へ～

○住民自らの行動に結びつける新たな6つの連携プロジェクト
～受け身の個人から行動する個人へ～

課題1 より分かりやすい情報提供のあり方は

A: 災害情報単純化プロジェクト ～災害情報の一元化・単純化による分かりやすさの追求～

水害・土砂災害情報統合ポータルサイトの作成、情報の「ワンフレーズマルチキャスト」の推進、
気象キャスター等との連携による災害情報用語・表現改善点検

課題2 住民に切迫感を伝えるために何ができるか

B: 災害情報我がことプロジェクト～災害情報のローカライズの促進と個人カスタマイズ化の実現～

地域防災コラボチャンネル(CATV×ローカルFM)、新聞からのハザード
マイ・ページ機能の導入、テレビ、ラジオ、ネットメディア等が連携した「マ

C: 災害リアリティー伝達プロジェクト

～画像情報の活用や専門家からの情報発信など切迫感とリア
河川監視カメラ画像の積極的な配信、専門家による災害情報の解説、
ETC2.0やデジタルサイネージ等を活用した道路利用者への情報提供

D: 災害時の意識転換プロジェクト

～災害モードへの個々の意識を切り替えさせるトリガー情報の
住民自らの避難行動のためのトリガー情報の明確化、緊急速報メールの配信文例の統一化

課題3 情報弱者に水害・土砂災害情報を伝える方法

F: 地域コミュニティ避難促進プロジェクト

～地域コミュニティの防災力の強化と情報弱者へのアプローチ～
登録型のプッシュ型メールシステムによる高齢者避難支援「ふるさとプッシュ」の
「避難インフルエンサー(災害時避難行動リーダー)」への情報提供支援

課題3 情報弱者に水害・土砂災害情報を伝える方法とは

F: 地域コミュニティ避難促進プロジェクト

～地域コミュニティの防災力の強化と情報弱者へのアプローチ～
登録型のプッシュ型メールシステムによる高齢者避難支援「ふるさとプッシュ」の提供、
「避難インフルエンサー(災害時避難行動リーダー)」への情報提供支援

上記課題を具体化させるために

E: 災害情報メディア連携プロジェクト

～災害情報の入手を容易にするためのメディア連携の促進～
テレビ・ラジオ・新聞からのネットへの誘導(二次元コード等)、ハッシュタグの共通使用、
公式アカウントのSNSを活用した情報拡散

マイ・タイムライン/ デジタル・マイ・タイムライン



- ・ 防災情報を「知る」ことから始まり、避難行動に向けた課題に「気づく」ことを促し、どのように行動するかを「考える」場面を創出...
- ・ クロノス的時間による制御
＝ケア責任を負う人の日常は「マイ」のタイミングで決められない
- ・ 誰もがマイ・タイムラインを持てば、避難行動は合理的に行われるか。

「自らの命は自らが守る」再考

方針転換の経緯

- 行政から住民を主役とするための取り組みへと転換するという方針になった（阪本, 2025）
- つまり、防災は従来の「行政サービス」から「行政サポート」へと変わったことを意味する（片田, 2020）
- 行政依存が著しい一般国民に対し、主体的に考えて防災行動を取るよう転換を迫る

ケア（脆弱性の前提）の欠落

- この議論の中に含まれる「自ら」に「脆弱たる私たち」は含まれているか？
- 「自らの命を自らのみで守れる人は誰一人としていない」を前提としたときの避難施策とは？

ケア研究からの知見

ケアに満ちたコミュニティの核

- **相互支援**

- ケア提供と受け取りができる
- 継続するためには構造的な支援が必要

- **公的な空間**

- 誰の所有でもなく、共同で維持される空間の価値を尊重

- **共有された資源**

- 物ばかりでなく情報も

- **ローカルな民主主義**

- インソーシング

例えばこんな避難施策はどうか

- 最もケアが必要な人がニーズを決める
- 避難における、人と人どうしの関係性により強い関心を向ける

具体的には

- 避難所となる場所を普段から育てておく
- 地域がLINEでつながっておく
- 自分たちの地域で小さな実践を行う

避難意思を問う設問

豪雨時、**お住まいの市町村から届いた以下の公式メッセージを見た場合**あなたはどれくらい避難をしようと思いますか？
0（家にとどまる）～100（避難する）でお答えください。（左図）

豪雨時、**お住まいの町内会のLINEグループで周りの住民が避難について話しているのをみた場合**あなたはどれくらい避難をしようと思いますか？
0（家にとどまる）～100（避難する）でお答えください。（右図）

（お住まいの市町村）公式LINE

市役所

（近隣の河川）
警戒レベル4
避難指示を発令

危険な場所から全員避難

理由：近隣の河川氾濫の
恐れが高い

行動要請：安全な場所へ
避難

安全な親戚・知人宅への
避難も検討、近所の人に
声をかけて避難

開設避難所：小学校

お住まいの町内会LINEグループ

近所のAさん

警戒レベル4の避難指示
が発令されてます

町内のBさん

避難をした方がよさそう
ですね

近所のAさん

私たちの家族は避難所に向
かってます

町内のCさん

私たちも避難所に向かう
準備をしています

Visual Analogue Scale (VAS) による避難意思の計測

上記のメッセージを見た際の避難意思をスライダーを動かして、
0（家にとどまる）～100（避難する）
で計測した

（例）「30」にスライダーを動かす場合 Drag the bar to 30

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100

家にとどまる Stay at home Evacuate 避難する



0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100

家にとどまる Stay at home Evacuate 避難する



平均値の比較

- ・河川カメラの56.1が最も高い
- ・住民会話が53.1と避難意思を高める方向に寄与
- ・雨雲レーダーに関しては33.3と避難意思を高めるのに最も寄与していない

避難意思	避難指示	住民会話	河川カメラ画像	水位グラフ	雨雲レーダー画像
Mean	41.5	53.1	56.1	52.1	33.3
Median	39.5	51.0	60.0	51.0	30.0
SD	30.7	29.2	31.8	30.7	27.0
n	400	400	600	600	600

避難指示

(お住まいの市町村) 公式LINE

市役所

(近隣の河川)
警戒レベル4
避難指示を発令

危険な場所から全員避難

理由：近隣の河川氾濫の
恐れが高い

行動要請：安全な場所へ
避難

安全な親戚・知人宅への
避難も検討、近所の人に
声をかけて避難

開設避難所：小学校

住民会話

お住まいの町内会LINEグループ

近所のAさん

警戒レベル4の避難指示
が発令されてます

町内のBさん

避難をした方がよさそう
ですね

近所のAさん

私たちの家族は避難所に
向かってます

町内のCさん

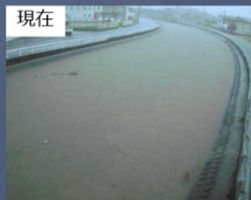
私たちも避難所に向かう
準備をしています

河川カメラ画像

防災LINE

現在の近隣の河川カメラ
画像です。
上が現在、下が普段の
河川の様子です。

現在



通常時

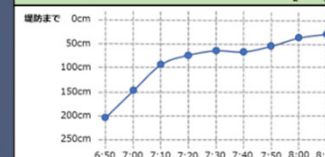


水位グラフ

防災LINE

現在の近隣の河川の水位
情報です
現在、河川の水位が堤防
の高さに近づいています

現在水位 堤防の高さまであと 38 [cm]



雨雲レーダー画像

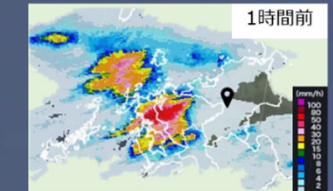
防災LINE

現在の雨雲レーダーです
非常に激しい雨が予想され
ています

現在



1時間前



ケアとしての「土木」に向けて

人間の脆弱性の前提

- 人間は他者からのケア（配慮・待遇）なしには生存不可能
- ケアやケア労働が尊重される社会
- より脆弱な存在の声を技術に反映することが技術の発展につながる
(Bellacasa, 2011)

Puig de la Bellacasa, M.: Matters of care in technoscience: Assembling neglected things. *Social Studies of Science*, 41(1), 85–106, 2011.

ケアの倫理における責任

- 國分による3つの責任
 - Respons-ibility
 - 帰責性
 - 自己責任
- 誰かが誰かに応答する
→自分ごと (orわれわれごとby宮本)
- あらゆる人のニーズが満たされることを目指す

北欧、暮らしの道具店
<https://hokuohkurashi.com/note/36005868>